

第 3 次健康日本 2 1 旭川計画(案) 主な修正箇所

国の「第 4 期がん対策推進基本計画（令和 5 年 3 月 28 日閣議決定）」における「がんと
の共生」において、治療を継続しながら社会生活を送るがん患者が増加する中で、治療に
伴う外見変化に対するサポートが重要であることを踏まえ、「アピアランスケア（※）」に
ついて独立した項目として記載されたことを鑑み、本市においてもアピアランスケアを推
進するための取組を実施することとしたため、当該事項の記載を追加した。

※医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因
するがん患者の苦痛を軽減するケア

【追記事項】 資料 2-2 P.48～ ※下線の箇所を追記

基本施策 2 誰もが健康づくりに取り組める環境の整備

社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上

(1) 現状と課題

新型コロナウイルス感染症の流行拡大による影響もあり、個人の社会的なつながりが減少
していると推測されています。社会とのつながりは、精神的健康、身体的健康、健康習慣、
死亡リスクなどの結果に良い影響を与えることが明らかになっています。社会参加による社
会的孤立の解消や役割の保持等は、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆され
ていることから、高齢化率が高い本市において、シニア期（65 歳以上）の QOL を高めるた
めにも社会参加が重要です。

令和 4 年度に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、65 歳以上で要介護の認
定を受けていない市民のうち、「週 1 回以上の地域活動に参加している」は 42.1%となっ
ており、最も多かった活動は収入のある仕事で 19.7%でした。就労的活動や地域での活動参
加など、社会とつながりを持ちながら過ごせる環境の整備が必要です。

また、本市における死因の第 1 位である「がん」は、生涯のうちに約 2 人に 1 人が罹患す
ると推計されており、がん患者の約 4 人に 1 人は、20 歳から 64 歳までの間にがんに罹患
しているとされています。がんになっても治療を継続しながら社会生活を送ることができる
環境の整備も求められています。

こころの健康の維持や向上に関しては、それぞれが自分なりのストレスへの対処法を身に
付けることに加え、職域等各コミュニティにおいてメンタルヘルス対策に取り組むこと、自
殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができるゲートキーパーの人数を
増加させるような環境整備を行う必要があります。

(2) 取組の方向性

就労的活動や地域活動等、生涯にわたって社会とのつながりを持ち続けることができるよう、社会参加の場の情報提供や地域での通いの場や活動団体等の活動支援を行います。

がん治療に伴う外見変化に対処する「アピアランスケア^{※10}」を推進するため、ウィッグや胸部補整具等の購入に係る費用に対する支援を行い、外見変化による心理的負担の軽減、就労等の社会参加の継続及び療養生活の質の向上を図ります。

また、各種講座や相談を行うとともに、関係団体と連携し、こころの健康やメンタルヘルス対策に関する効果的な普及啓発活動を推進します。

※10 アピアランスケアとは、医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのことをいいます。

(5) 主な取組

取組	内容	ライフステージ				
		妊/乳	学	青	壮	シニア
高齢者の就労的活動の支援	● 高齢者の知識や技術を生かした就労的活動につなげるための支援					●
地域支え合い活動の推進	● 地域におけるボランティア活動等、支え合い活動への参加の推進		●	●	●	●
地域で活動しているサークル等活動団体の広報	● 地域で活動している多種多様なサークル活動への参加の推進	●	●	●	●	●
<u>アピアランスケアの推進</u>	● <u>がん治療に伴う外見変化に対応するウィッグ等の購入に係る費用を補助</u>	●	●	●	●	●
ストレス等メンタルヘルスに関する普及啓発	● 正しい知識を普及し、ストレスチェックやストレスとの付き合い方等の自分自身のメンタルヘルスについて学ぶ機会の提供	●	●	●	●	●
ゲートキーパーの養成	● 自殺に追い込まれる危機に陥った人の心情や背景への理解を深め、市民の身近で自殺対策に関わる役割を持つ人材であるゲートキーパーの養成		●	●	●	●